

SERI NEWS RELEASE

平成 25 年 7 月 30 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 25 年 7～9 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「7～9月期の見通し」は、『やや上昇』が2業種、『横ばい』が17業種、
『やや下降』が1業種～

- 平成25年6月実施の静岡県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査では、現在（4～6月期）の業況は、『順調』『普通』がそれぞれ1業種、『低調』が17業種、『不調』が1業種となり、前回（1～3月期）と比べ大きな変化はなかった。
- 平成25年7～9月期の見通しについては、20業種中、「建設」と「観光・レジャー」の2業種が『やや上昇』、17業種が『横ばい』、「二輪車部品」が『やや下降』となった。円高修正により原材料の輸入コストが上がる一方、売上や収益増加などの効果はいまだ出てきておらず、夏以降の内外需回復に期待がかかる。

担当：出版担当 望月

輸入コスト上昇の一方、 内需・外需ともいまだ回復せず

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成25年4～6月期）の業況は、『好調』とする業種はなく、『順調』、『普通』がそれぞれ1業種、『低調』が17業種、『不調』が1業種となった。

前回（平成25年3月）調査との比較では、消費税引上げ前の駆け込み需要が本格化しつつある「住宅」が『普通』から『順調』に、生活家電の高性能モデルへの買い替え需要に支えられた「家電量販店」が『不調』から『低調』に、それぞれ1ランク上昇した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成25年7～9月期の見通しは、20業種中、『やや上昇』が2業種、『横ばい』が17業種、『やや下降』が1業種となった。

業種別にみると、『やや上昇』と見られるのは、国による25年度予算の執行と、県の補正予算がらみで津波対策工事の発注が増えると見込まれる「建設」、世界遺産登録効果で富士山麓、伊豆地区の観光客の増加が望めそうな「観光・レジャー」の2業種で『低調』からの上昇が期待される。

『横ばい』は17業種で、9月末までに注文住宅の工事請負契約を締結すると消費税率を据え置く特例措置の効果が出る「住宅」が『順調』のまま、エアコン・冷蔵庫の省エネモデルへの切り替え需要が堅調な「民生用電器部品」が『普通』のまま横ばいの見通し。また、夏季のドリンク需要が多少見込めるものの贈答品や仏事の引き合いが戻らない「製茶」、原料価格の高騰が続く「食品・飲料」、在庫調整は進んだものの原燃料コストが上昇している「家庭紙」、「産業用紙」、円高是正が受注量の増加につながっていない「工作機械」、エコカー補助金の反動減が続く「自動車部品」が『低調』のまま横ばい。非製造業では、一部の高額品以外は低価格化競争から脱せない「大型小売店」、「食品スーパー」、ハイブリッド車や新型軽自動車などごく一部のモデルに人気ที่偏る「自動車販売」、大型ヒット商品が見当たらない「家電量販店」、燃料コストを運賃に転嫁しきれない「運輸・倉庫」、製造業のIT投資が盛り上がらない「情報サービス」、輸入食材の価格が上昇している「外食」、環境関連の需要が増加見込みも契約額全体の水準は低い「リース」、需給ミスマッチから派遣労働者数が伸びない「人材派遣」の9業種で『低調』のまま横ばいの見通し。

また、海外生産比率が高くなった「二輪車部品」は『不調』からさらに『やや下降』と見込まれる。

なお、半期調査業種では、中高級品が伸び悩む「家具」、国内市場で苦戦が続く「楽器」とも『低調』のまま『横ばい』の見通し。



昨年11月以降、短期間で円安に振れ、原材料・燃料・商材の輸入コストが上昇する一方で、輸出産業の受注数量の増加や、雇用者所得の増加を通じた消費活発化といったプラス効果はいまだ発現しておらず、県内産業景気は夏以降の内外需回復に期待がかかる。